

- 2 今月の話題「進む景観づくり」
- 4 特集1「いいたて 新しい物語」
- 10 いいたて百景「ふかや風の子広場」
- 12 学びの広場「こども園の園章」ほか
- 13 ほけんとふくし「コロナ疲れ」
- 14 ほけんとふくし「長寿番付」ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 そのころはっ／おすすめ図書
- 20 おしらせのページ
- 21 入札結果
- 22 いいたてDIARY／ラオス通信。
- 23 こころのぽけっと／ひとのうごき
- 24 HOPES (ホープス)

地域の景観を地域の人の手で彩ります

行政区の特性に合わせた「景観づくり」が進んでいます

行政区ごとの取り組みを応援する「地域づくり事業(農村楽園推進事業)」補助金。行政区の戸数に応じた配分で交付され、地域のニーズや個性に合わせた事業をバックアップしてきました。また、全村避難の間中は、交流事業などに活用され、行政区のつながりを支えた他、その後の地域保全活動にも、広く活用されてきました。

今年度は、交付額の20%程度を、それぞれの行政区が「景観づくり」に充てるという項目が、この補助事業に盛り込まれました。すると早速、いくつかの行政区で、地域の特性や帰村状況などに合わせた、あの手の「景観づくり」が始まりました。8月26日現在、7行政区が、さまざまな発想で、景観づくりを進めています。



伊丹沢行政区は、県道原町川俣線から村役場に通じる村道沿いの花壇を整備しました。行政区の皆さんが、花壇の土をおこすところから協力して作業を進め、マリーゴールドやペゴニアなど、明るい色の花の苗を植えました。夏を迎えて、元気いっぱい咲いた花々が、行き交うドライバーに笑顔を振りまっています。



「地域づくり事業」の一環として

「地域づくり事業(農村楽園基金推進事業)」は、平成3年度に、「住民の主体的・自主的な活動による地域づくり」を目的に、スタートしました。

今年度から、この補助金の一部を景観づくりに充てて活動していただくよう、制度の見直しを行いました。補助金は、景観づくりの資材の購入や講習などに活用し、作業自体は地区の皆さんが行うことになっています。今回紹介した花植えの他にも、花木の植樹など、行政区ごとに工夫をこらした景観づくりが行われています。

現在、村内に居住する人は約1,500人(全村避難前の約24%/8月1日現在)となっていますが、避難先から通って景観づくりに携わる方も少なくありません。地域の絆を再確認する時間にもなっているようです。

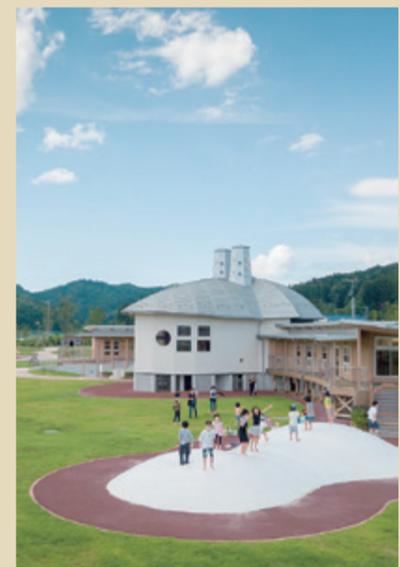
問 村づくり推進課企画係 ☎ 0244-42-1613



飯樋町ではプランターなどで夏の花を栽培。火の見櫓や屯所の周囲もきれいな花で彩られています。



関根・松塚行政区では、全戸にダリアの苗を配り、栽培講習会も開きました。華やかなダリアを各戸の庭や畑で咲かせて地区全体を彩っていく計画です。



今月の表紙
8月9日にオープンした「ふかや風の子広場」。たくさんの親子にご利用をいただいています。お盆明けのこの日は、学童保育に通う村の子ども達も来場。広場ならではの遊びを満喫していました。